



EARTH
FOOD
CREATOR

日清食品グループ×プラスチック



2026年1月

日清食品ホールディングス株式会社

サステナビリティ推進部



EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。

Earth
Material
Challenge

資源の有効活用へのチャレンジ

地球に優しい調達



持続可能な
バーム油調達比率
100%

地球資源の節約



水の使用
12.3m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.5%以上
販売・流通過程の廃棄物
半減 *日本の実績が対象

Green
Food
Challenge

気候変動問題へのチャレンジ



グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲42%
(対2020年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲25%
(対2020年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲25%
(対2020年比)

日清食品グループの事業活動とプラスチックの関係

日清が販売する商品の容器包装の多くにプラスチックが使用されている



容器/
包材素材

紙+石化バッキンガムプラスチック
(PE)

石化プラスチック
(PS)

石化プラスチック
(PP、PET、NY、PE等)

軽量かつ保存に適した性質を持つプラスチックは食品会社にとって必須素材

■参考 World Instant Noodles Association 2024 Global Demand data

世界
市場規模

1,231億食 (2024年)

容器包装の削減にむけた目標の策定

容器包装に関する2030年目標 (2021年6月策定)

1

全ての製品に
環境配慮型の容器包装を使用します

- 基準年：2018年
- 対象：日清食品グループ 日本国内・海外



バイオマスECOカップ、Wタブ、ノントレー化 など

軽量・減容化、バイオマス化、紙化などの容器包装に関する
改良はもちろんのこと、マテリアルリサイクル、ケカルリサイクル、
リサイクル素材の容器への活用なども含む

2

容器包装に係る「石化由来プラスチック総量/売上高」を
20%以上削減します

- 基準年：2018年
- 対象：日清食品 日本国内



| バイオマスECOカップ[®]

導入年	素材	主要使用素材	プラ削減率	CO2削減率
'08年以前	EPS カップ [®]	バイオマス度 0%	石化プラスチック	(基準)
'08年	ECO カップ [®]	バイオマス度 71%	紙 石化プラスチック	▲23% (基準)
'19年	バイオマス ECOカップ [®]	バイオマス度* 81%~	紙 バイオマスプラスチック	▲40% ▲16%

*バイオマス度は植物由来素材の比率として定義 = (紙+バイオマスプラスチック比率)
その他は食品の衛生・品質等を配慮して一部石化プラが使用されている

出所：日清食品試算

| フタ止めシールの廃止

廃止!!



フタ止めシールをやめて
プラスチック原料削減！！

プラスチック原料削減
約41トン/年

CO₂排出量削減
約207トン/年

►2021年6月 フタ止めシール廃止でプラスチック原料削減
止まりやすい新形状のフタ“Wタブ”

►2023年6月～ビッグサイズも切り替え開始



“海洋プラスチック”を素材の一部に活用したパレットの導入

国内初！

**“海洋プラスチック”を素材の一部に
活用したパレットを導入**

“海のごみ”を価値あるモノへ

サイズ: 1,000mm×1,200mm×130mm

重量: 13kg

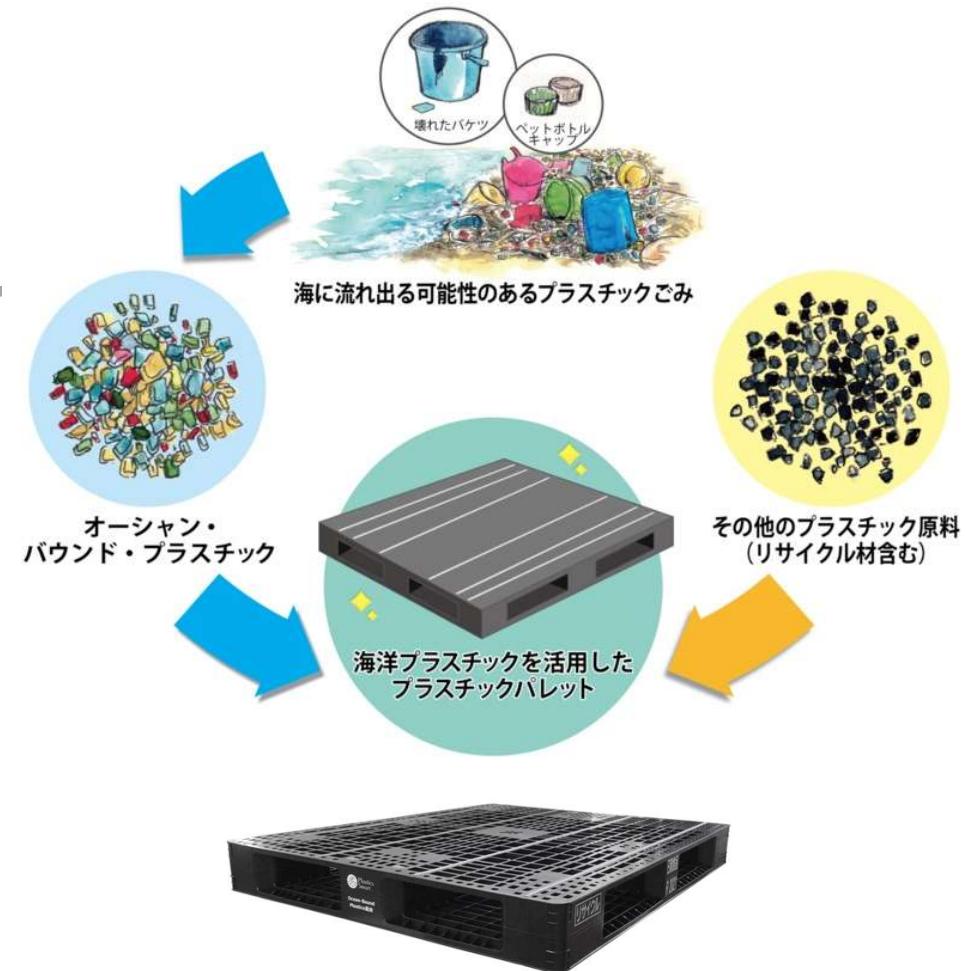
製造元: 岐阜プラスチック工業

特長:

- ・素材の一部にオーシャン・バウンド・プラスチックを使用
- ・「プラスチック・スマート*」のロゴを印字

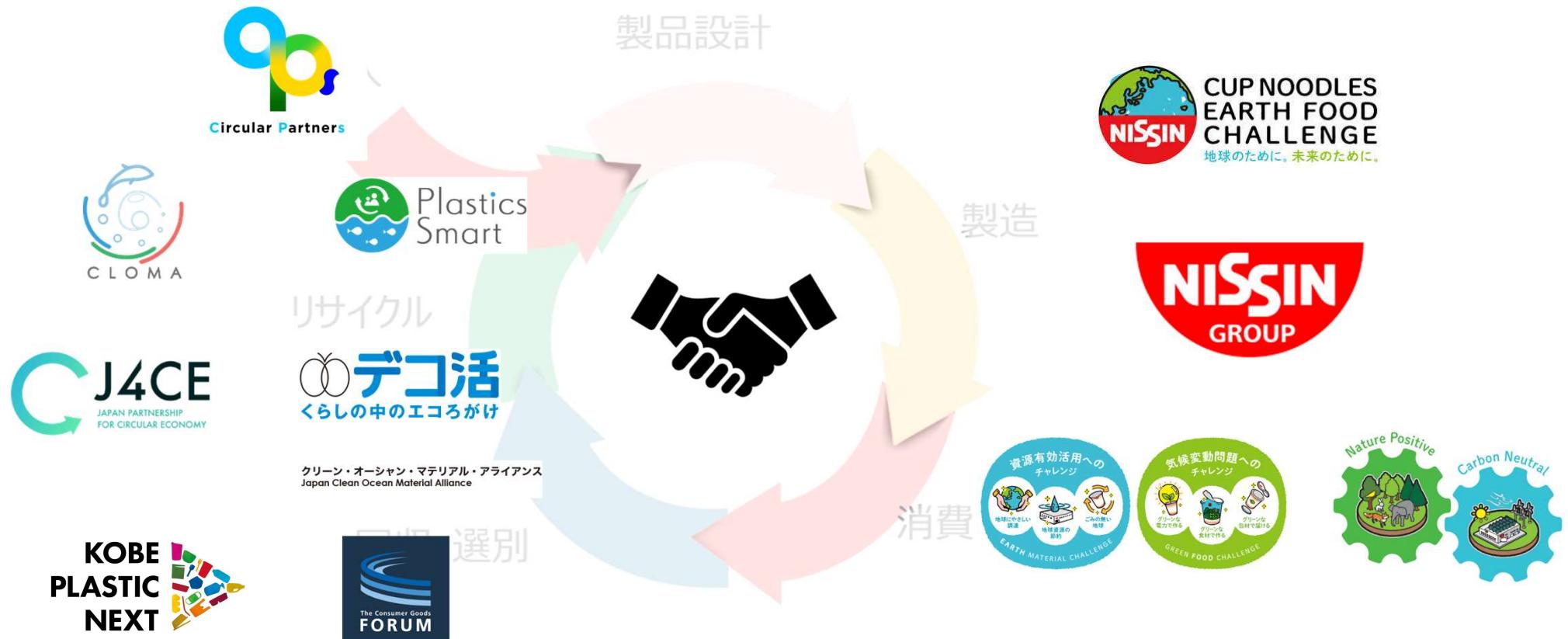


►2021年11月 パレットの使用開始



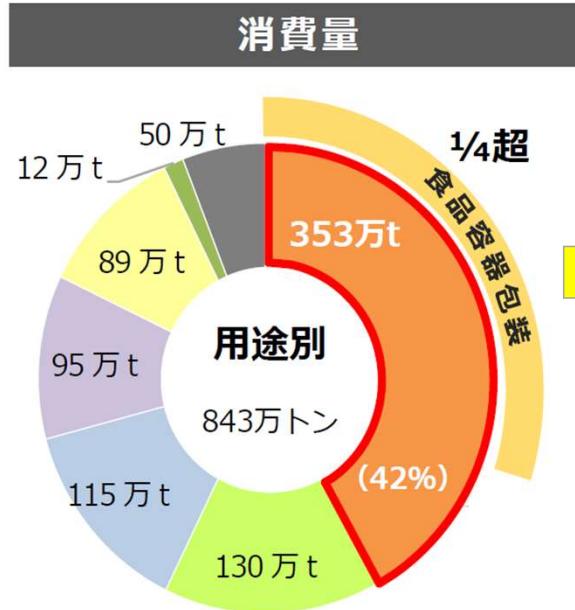
| 資源循環等に関するパートナーシップへの参画

日清食品グループでは各種パートナーシップに参画しながら環境取組みの強化を図っています。
特に資源循環などの取組みは、産官学の連携が重要と考えております。



素材別のリサイクル状況

素材別にリサイクル材の利用、普及促進の取り組みを整理するとPSのリサイクル材は他より遅れをとっている。



60万t

190万t

100万t

食品容器包装内訳

指定PETボトル
(約60万t)

オレフィン系
PE, PP
(約95万t)

指定以外のPET
(約40万t)

PS
(約40万t)

その他
(約15万t)

食品以外
(約100万t)

再生材利用、普及促進の状況

飲料PETボトルを中心にボトルtoボトルを推進中
(2023年リサイクル材使用実績：33.7%)

CLOMA/CPs 容器包装WGにて推進中

オレフィン：油化
飲料以外のPET：MR

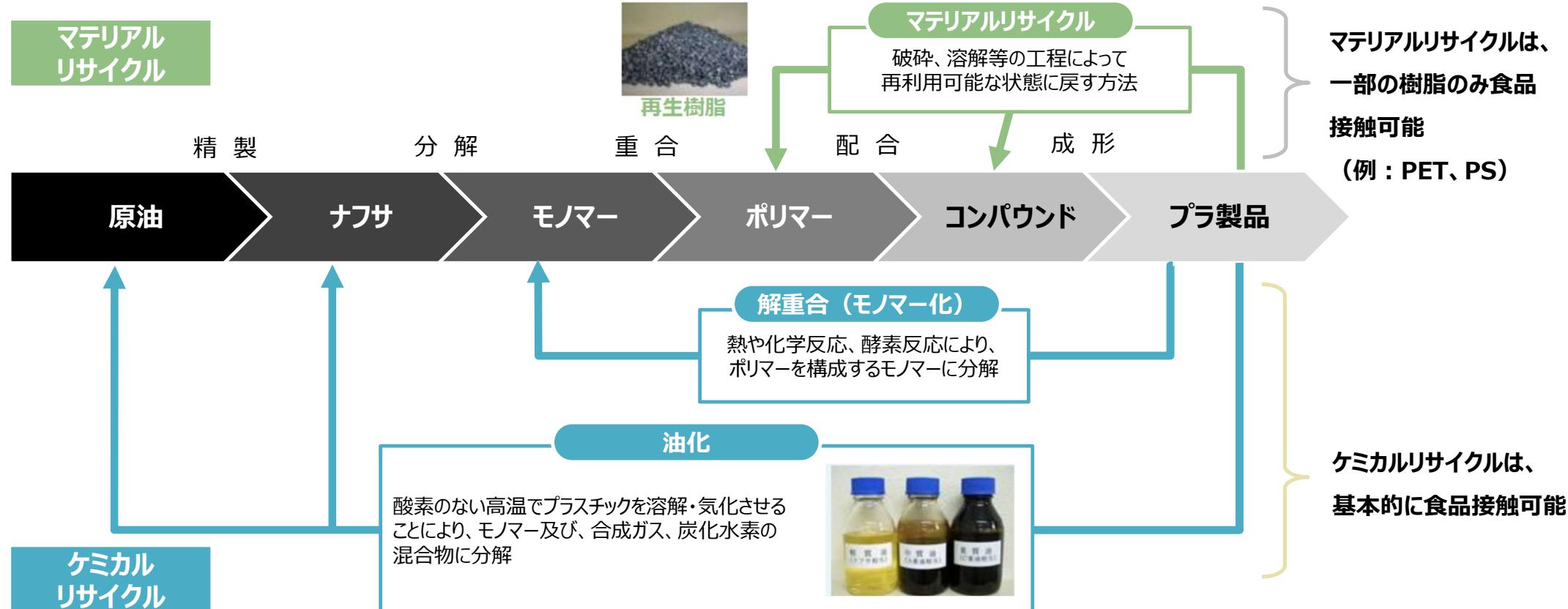
乳酸菌飲料容器の個別回収を実施しているが量が集まらない
CR（モノマー化）の実証施設はあるが動静脈連携できていない

～ 省略 ～

(出典) 農林水産省 食品容器包装におけるプラスチックをめぐる情勢をもとに日清食品HDにて加工

プラスチックのリサイクル手法について

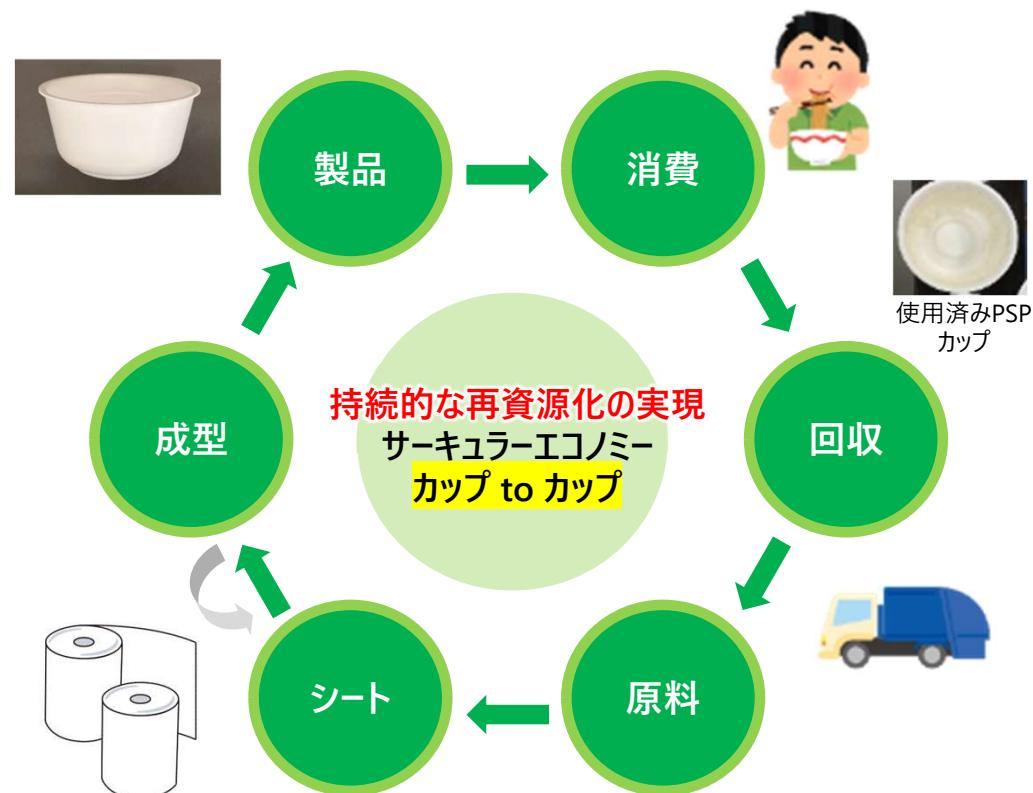
食品と直接接触するプラスチックについては、安全性の面から
ケミカルリサイクルが望ましい



(出典) 農林水産省 食品容器包装におけるプラスチックをめぐる情勢をもとに日清食品HDにて加工

PSPカップの水平リサイクル『カップtoカップ』 ケミカルリサイクル

PSPカップの回収～洗浄・選別～ペレット化～再資源化のリサイクルプロセス確立。PSPカップがリサイクル可能な『資源』ということが認知され、使用済み容器の水平リサイクル『カップtoカップ』の資源循環ができている。



目指すべきゴール

PSPカップリサイクルプロセスのオペレーション
(回収～洗浄・選別～ペレット化～再資源化) の最適化に向けた課題を抽出

①PSPカップの資源回収量を増やしていく活動
⇒ PSPカップは「資源」という意識づけ

②回収リサイクルされたPS再生材を
再びPSPカップに利用

啓発：NISSIN ポイっとプロジェクト in 仙台

仙台市科学館にて25年3月15日～16日に開催。2日間で1,000名以上が来場。

消費者に対して授業と実験を通じて『地球にやさしい捨て方』を学んで頂いた。

実験室を使った授業



明日からできることを宣言



GO-MISSION 1

識別マークを探そう！



識別体験

GO-MISSION 2

リサイクル実験を見てみよう！



粉碎体験



光学選別体験



再資源化体験

GO-MISSION 3

正しく分別しよう！



仙台市のルールに基づいた分別体験



CR実証：市場回収した再生PSのケミカルリサイクル適性評価

リサイクルPSをそれぞれのPSメーカーにて分析評価。現状では、市場回収から製造したリサイクルPSではモノマー化原料となる純度に達しなかった。



PSリサイクル材利用に向けた動静脈連携の必要性

食品向けの
リサイクルPS
が抱える懸念

- ✓ PS各社/関連企業の動静脈連携が取れておらず、リサイクルPSの普及に向けた取り組みが計画的に進められていない。
- ⇒ このままで、食品向けリサイクルPSの普及に遅れをとる懸念がある。

食品向けリサイクルPS実用化には、各工程における課題の他、品質、保存性、物性、コスト、安全性、GHG排出など確認事項多い

<想定される課題>

※日清調べ

	排出源（自治体）	一次選別	中間処理	ケミカルリサイクラー	ブランドオーナー	その他
内容	資源化率向上、CO2削減、費用負担の緩和、自治体の循環実績・PR向上。	追加作業費の補填（補助・インセンティブ設計）、新規売上（再生材サプライチェーンへの組込み）	高付加価値サプライチェーンへの参画、長期契約化	需要家（食品容器）とつながる安定需要、政策的な値差支援の適用対象化	品質、物性、安全面の担保、物量確保等。	資源有効利用促進法の目標達成支援、食品容器分野の適用に向けた実証データ取得



Fin

